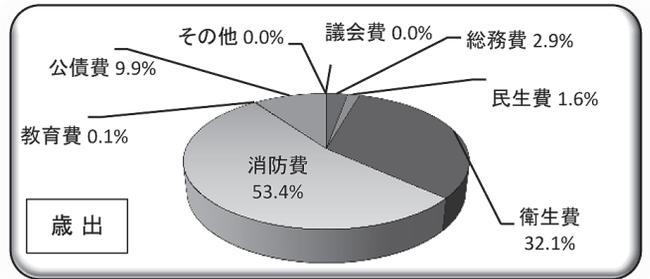
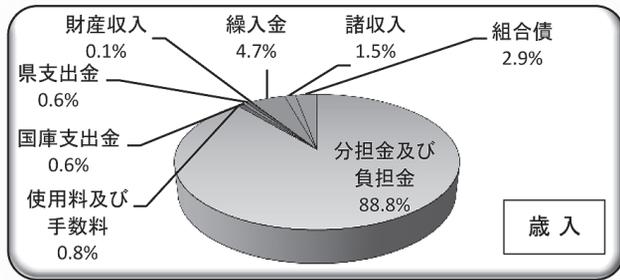


平成 24 年度 鳥取県西部広域行政管理組合当初予算の概要

2月組合議会定例会で、平成24年度当初予算が決まりました。

今年度の一般会計予算額は58億4,534万3千円で、対前年度当初予算比で0.05%の減となっています。



うち共同処理事務に使う市町村負担金は51億6,738万3千円で、構成市町村別の内訳は次のとおりです。

歳入区分	予算額
分担金および負担金	51億8,940万円
使用料および手数料	4,647万円
国庫支出金	3,315万円
県支出金	3,465万円
財産収入	382万円
繰入金	2億7,663万円
諸収入	8,843万円
組合費	1億7,280万円
合計	58億4,534万円

市町村	負担金
米子市	27億7,634万円
境港市	6億9,001万円
日吉津村	1億1,800万円
大山町	4億8,207万円
南部町	3億3,146万円
伯耆町	3億4,277万円
日南町	1億7,520万円
日野町	1億3,020万円
江府町	1億2,133万円

歳出区分	予算額
議会費	63万円
総務費	1億6,857万円
民生費	9,591万円
衛生費	18億7,344万円
消防費	31億2,254万円
教育費	380万円
公債費	5億7,996万円
その他	50万円
合計	58億4,534万円

※表中の予算額は万単位で四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

【問合せ】鳥取県西部広域行政管理組合 総務課（電話 0859-22-7722）

モリモリ遊ぼう！学ぼう！食べよう！

モリモリ げんき 森森 体験教室

かけがえのない森のこと、
楽しく知ってみませんか。
夏休みの思い出と宿題はこれで決まりだね！

開催日：8月5日（日）（少雨決行）
場所：鏡ヶ成キャンプ場（休暇村奥大山）
対象：小学校3年生以上とその保護者
定員：30人
参加費：一人800円

服装：長そで、長ズボン、運動しやすい靴
《スケジュール》10：00～15：00

- ▶ 森林のことを知る体験
- ▶ 薪を使ったアウトドア料理
- ▶ 楽しい木工工作

《申込み・問合せ》

休暇村奥大山（江府町御机字鏡ヶ成709 - 1）
電話 0859 - 75 - 2300

※申込締切：7月29日（日）

（定員になり次第、募集を締め切ります）

主催：げんき森森体験教室実行委員会

中山間地域振興策の勉強会と 地域づくり意見交換会 開催のお知らせ

日時＝7月4日（水）15:00～16:30
会場＝山村開発センター 研修室（2階）

《問合せ先》

日野総合事務所県民局 商工観光課
（電話 72 - 2081）

私たちの住む地域を、元気で活力ある場所にするために活動しておられる皆さん、また、これから地域のために何かを始めようと考えておられる皆さん、お互いの情報と意見を交換し、ざっくばらんに話し合ってみませんか。地域づくりのヒントが生まれるかもしれません。

また、県の各種補助金制度の説明を行い、県がお手伝いできることを見出したいと思います。

自治会、住民団体、ボランティア団体など、どんなグループの方もお気軽にご参加ください。お待ちしております。



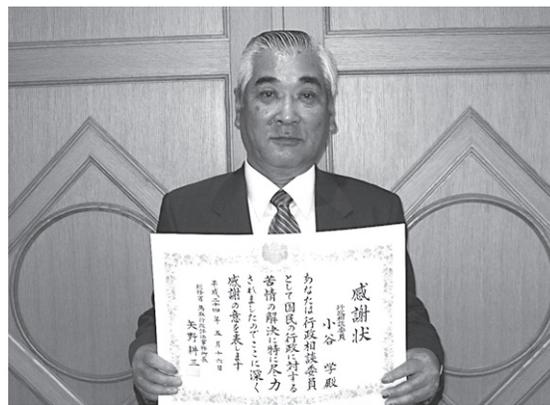
花の苗や加工品を買い求める人でにぎわう会場

花や加工品など商品並ぶ 日野高ショップが開店

日野高校の生徒たちが作った野菜や草花、農産加工品などを低価格で販売する「日野高ショップ」が、5月から12月までの第2土曜日に、町商工会館前（根雨）で開かれています。

5月12日の開店初日には、同校郷土芸能部の荒神神楽が披露され、華やかな開店セレモニーの後、新鮮な色とりどりの草花、農産加工品を買い求める多くの地元住民らでにぎわい、行列ができるほどの大盛況でした。

また、日野高ショップ開催日にはセルプひののバザーも開かれ、買い物後にお茶で一息つく人々の姿が見られました。



感謝状を手に、さらなる活躍を誓う小谷さん

行政に携わった経験生かす 行政相談員小谷さんに感謝状

行政相談員として活動されている小谷さん（野田）が総務省鳥取行政評価事務所長感謝状の贈呈を受けられました。

これは、平成20年8月から現在まで、行政相談員の委嘱を受け、住民の行政に対する苦情解決に尽力されている委員活動が評価されたものです。小谷さんは「まずは相談に来られる住民の方の話をじっくりお聞きすること」と話します。

5月16日、湯梨浜町の水明荘で行われた感謝状贈呈式で小谷さんは「今後も役場への橋渡しだけでなく、地域や住民の役割と行政の役割のバランスに理解を求めながら、活動したい」と抱負を述べました。

農作業体験に汗流す 下上菅地区で田植え交流会



地元の住民に指導を受けながら奮闘する参加者ら

都市消費者と里山の生産者が田植えを通して、里山の素晴らしさや厳しさを体験してもらいたいと、5月20日、下上菅地区内の水田で、田植え・代満て大昼食会が開かれました。

当日は町内外から多くの参加があり、地元住民が歌う田植え歌を聞きながら15坪の田んぼで田植えを楽しみました。田んぼの両側で引かれるひもに合わせ、苗を4、5本ずつ丁寧に植えていきました。また、参加者らは会場を移動し、サツマイモの苗植えを体験。500本の苗を畑に植えました。

田植え後の代満て大昼食会では、山菜料理などの昼食が準備され、春の味覚に舌鼓を打ちました。

天然素材で防草します 赤松産業が役場前に防草材試験



木材のチップの風合いが景観と合う

土木工事や環境資源リサイクル事業を営む有限会社赤松産業（貝原、赤松康近社長）は、開発した防草材『草難です』の試験施工を山村開発センター前で行っています。

日野産材の破碎処理で出る木材チップを使用したもので、天然素材で自然に戻るのが特徴。防草や保水・透水性に優れ、水が溜まらず転倒しにくいとのこと。施工も簡単で、玄関アプローチや花壇、お墓など草が生えて困るところにはどこでも使えます。

山村開発センター前を通りかかると、木材の香りがして、心癒やされます。詳しくは赤松産業（電話72・6007）まで。

▼あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。★役場企画政策課まで（電話72・0332）